

35.C14250



PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:)
YUKINORI YAMAMOTO) : Examiner: Not Yet Known
Appln. No.: 09/501,590) : Group Art Unit: 2785
Filed: February 10, 2000) :
For: DECODING APPARATUS AND) :
METHOD, AND STORAGE) :
MEDIUM STORING DECODING) :
PROCESSING PROGRAM) :
OF THE SAME) : May 25, 2000

GROUP 2700

MAY 30 2000

RECEIVED

The Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

CLAIM TO PRIORITY

Sir:

Applicant hereby claims priority under the
International Convention and all rights to which he is
entitled under 35 U.S.C. § 119 based upon the following
Japanese Priority Application:

11-039582 filed on February 18, 1999

A certified copy of the priority document is
enclosed.

Applicant's undersigned attorney may be reached in our New York office by telephone at (212) 218-2100. All correspondence should continue to be directed to our new address given below.

Respectfully submitted,



Attorney for Applicant

Registration No. 92,476

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO
30 Rockefeller Plaza
New York, New York 10112-3801
Facsimile: (212) 218-2200

CF0 14250US
09/501, 590 / S45

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

RECEIVED
MAY 30 2000
GRUP 1700

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年 2月18日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第039582号

出 願 人

Applicant (s):

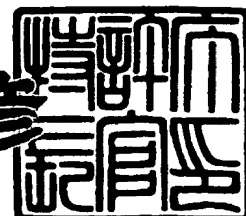
キヤノン株式会社



2000年 3月10日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



出証番号 出証特2000-3015015

【書類名】 特許願

【整理番号】 3686050

【提出日】 平成11年 2月18日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 7/133

【発明の名称】 ビットストリーム復号化装置、方法及び記憶媒体

【請求項の数】 15

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 山本 行則

【特許出願人】

 【識別番号】 000001007

 【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100090273

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 國分 孝悦

 【電話番号】 03-3590-8901

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 035493

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9705348

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ビットストリーム復号化装置、方法及び記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数のオブジェクト毎に符号化及び多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離するとともに、上記各オブジェクトストリームを復号化した後で合成するビットストリーム復号化装置であって、

上記各オブジェクトストリームを復号化する際の精度を複数段階に制御可能にしたことを特徴とするビットストリーム復号化装置。

【請求項 2】 上記オブジェクトストリームは、回線を介して入力された放送ストリームであることを特徴とする請求項 4 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 3】 上記オブジェクトストリームは、DVD を含むパッケージメディアより得られたストリームであることを特徴とする請求項 4 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 4】 複数のオブジェクト毎に符号化され、多重化されたビットストリームを復号化するビットストリーム復号化装置であって、

上記多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離する分離手段と、上記各オブジェクトストリームを各々復号化する復号化手段と、復号化された各オブジェクトを合成する合成手段とを備え、

上記各復号化手段のうち、少なくとも 2 つの復号化手段は 1 つのグループを形成し、グループ内で優先順位を付され、かつ優先順位の低い順に少なくとも 1 つの復号化を行わないことを特徴とするビットストリーム復号化装置。

【請求項 5】 上記グループが、ビデオオブジェクトの復号化を行う手段からなることを特徴とする請求項 4 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 6】 上記グループが、オーディオオブジェクトの復号化を行う手段からなることを特徴とする請求項 4 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 7】 上記グループが、シーン記述オブジェクトの復号化を行う手段からなることを特徴とする請求項 4 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 8】 上記グループが、ビデオオブジェクト復号化を行う手段およ

びこれに各々付随するオーディオ復号化を行う手段からなることを特徴とする請求項 4 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 9】 上記の復号化を無効とする手段が設けられていて、上記無効手段の動作は別回線からの指示により制御されることを特徴とする請求項 4 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 10】 上記の復号化を無効とする無効手段が使用される、あるいは使用されたことを別回線に出力する出力手段を備えたことを特徴とする請求項 9 に記載のビットストリーム復号化装置。

【請求項 11】 複数のオブジェクト毎に符号化及び多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離するとともに、上記各オブジェクトストリームを復号化し、上記復号化された各オブジェクトストリームを合成するビットストリーム復号化方法であって、

上記各オブジェクトストリームを復号化する際の精度を複数段階に制御可能なことを特徴とするビットストリーム復号化方法。

【請求項 12】 上記オブジェクトストリームは、放送されたストリームであることを特徴とする請求項 11 に記載のビットストリーム復号化方法。

【請求項 13】 上記オブジェクトストリームは、DVD を含むパッケージメディアにより得られたストリームであることを特徴とする請求項 11 に記載のビットストリーム復号化方法。

【請求項 14】 請求項 1 ～ 10 に記載のビットストリーム復号化装置を構成する各手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムをコンピュータから読み出し可能に格納したことを特徴とする記憶媒体。

【請求項 15】 請求項 11 ～ 13 の何れか 1 項に記載のビットストリーム復号化方法の手順をコンピュータに実行させるためのプログラムをコンピュータから読み出し可能に格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はビットストリーム復号化装置、方法及び記憶媒体に関し、特に、デジ

タルTV受信装置あるいはデジタル蓄積メディア再生装置など、符号化されて多重化された画像や音声などのビットストリームを復号化する装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

図4に、符号化されたビットストリームの復号化装置の従来例を示す。これは、課金を伴うデジタル放送受信機のおおまかな構成を表している。図4において、401は符号化されたビットストリーム入力端子、402はデスクランブル手段、403は多重化されたデータを分離する手段である。

【0003】

404は分離されたオーディオ信号を復号するオーディオ復号化手段、405は同じく分離されたビデオ信号を復号するビデオ復号化手段、406は電話回線などの通信回線端子、407はモデム、408はCPU、409はICカード、410はリモコンをそれぞれ示している。

【0004】

以下、図4に従って従来のデジタル放送受信機の動作を説明する。図4においてチューナ（図示せず）で受信されたビットストリームは入力端子401から内部に入力される。符号化方式としては、いわゆるMPEG2が一般的によく用いられる。

【0005】

この入力ストリームは、通常は符号化されたオーディオ信号とビデオ信号が多重化されており、課金を伴うシステムではビットストリームに対してさらにスクランブルが施されるのが一般的である。

【0006】

課金の仕組みについては後述するとして、視聴が許可されているものとする。デスクランブル手段402に入力されたストリームは、CPU408から与えられるスクランブル解除キーによりスクランブルを解除されて分離手段403に入力される。

【0007】

分離手段403では、オーディオ信号とビデオ信号のストリームとに分離され

、各々復号化手段404、405に供給されて元のオーディオ信号とビデオ信号の状態で出力されて表示される。なお、CPU408からオーディオ復号化手段404、ビデオ復号化手段405に制御線がでているのは、ステレオ・複数国語の制御や情報を画面に表示するためである。

【0008】

さて課金の仕組みであるが、1つには、あらかじめモデム407を介して管理センターと契約を行うと番組IDとスクランブル解除キーがICカード409に記憶され、該当番組の視聴時にはCPU408がICカード409にアクセスして必要な情報を得るというものである。この場合はあらかじめ契約していない番組は視聴できない。

【0009】

これに対して、ある課金番組を視聴する時に、いつでもスクランブルが解除でき、解除キーを使用したという情報をモデム407を介して管理センターに報告するというシステムもある。

【0010】

これは、いわゆるペーパービュー方式と呼ばれる方式で、ICカード409にある個人情報と視聴記録をセンターに送信することで、後日支払いが発生するシステムである。

【0011】

また、課金とは関係ないが、視聴年齢制限（パレンタルロック）機能というのがあり、リモコン410を介して暗証番号を入力しないと、たとえ料金を支払っても特定（成人）の番組が見られない（スクランブルが解除できない）というものである。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来はいずれの方式においても視聴制限の単位はチャンネル単位か、或いは番組単位がせいぜいであり、制限のレベルもオン／オフの制御しかできなかった。このため、同じ番組でも契約に応じてさらに高品位の映像を提供するようにしたり、インタラクティブな番組を提供することは困難であった。

【 0 0 1 3 】

また、近年ではDVDなどの大容量メディアも登場し、再生可能か不可能かといった画一的な制御だけでなく、大容量性を生かして柔軟で多様な使用形態が望まれていたが、このようなサービスを実現することが困難であった。

【 0 0 1 4 】

本発明は上述の問題点にかんがみ、複数のオブジェクト毎に符号化及び多重化されたビットストリームを復号する際の精度を多段階に設定できるようにして、柔軟で多様なサービスを可能にすることを目的とする。

【 0 0 1 5 】

【課題を解決するための手段】

本発明のビットストリーム復号化装置は、複数のオブジェクト毎に符号化及び多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離するとともに、上記各オブジェクトストリームを復号化した後で合成するビットストリーム復号化装置であって、上記各オブジェクトストリームを復号化する際の精度を複数段階に制御可能にしたことを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置の他の特徴とするところは、上記オブジェクトストリームは、回線を介して入力された放送ストリームであることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、上記オブジェクトストリームは、DVDを含むパッケージメディアより得られたストリームであることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、複数のオブジェクト毎に符号化され、多重化されたビットストリームを復号化するビットストリーム復号化装置であって、上記多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離する分離手段と、上記各オブジェクトストリームを各々復号化する復号化手段と、復号化された各オブジェクトを合成する合成手段とを備え、上記各復号化手段のうち、少なくとも2つの復号化手段は1つのグループを形成し、グループ内で優先順位を付され、かつ優先順位の低い順に少なくとも1つの復号化を行わないことを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、上記グループが、ビデオオブジェクトの復号化を行う手段からなることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、上記グループが、オーディオオブジェクトの復号化を行う手段からなることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、上記グループが、シーン記述オブジェクトの復号化を行う手段からなることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、上記グループが、ビデオオブジェクト復号化を行う手段およびこれに各々付随するオーディオ復号化を行う手段からなることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、上記の復号化を無効とする手段が設けられていて、上記無効手段の動作は別回線からの指示により制御されることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化装置のその他の特徴とするところは、上記の復号化を無効とする無効手段が使用される、あるいは使用されたことを別回線に出力する出力手段を備えたことを特徴としている。

【 0 0 1 6 】

本発明のビットストリーム復号化方法は、複数のオブジェクト毎に符号化及び多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離するとともに、上記各オブジェクトストリームを復号化し、上記復号化された各オブジェクトストリームを合成するビットストリーム復号化方法であって、上記各オブジェクトストリームを復号化する際の精度を複数段階に制御可能なことを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化方法の他の特徴とするところは、上記オブジェクトストリームは、放送されたストリームであることを特徴としている。

また、本発明のビットストリーム復号化方法の他の特徴とするところは、上記

オブジェクトストリームは、DVDを含むパッケージメディアにより得られたストリームであることを特徴としている。

【0017】

本発明の記憶媒体は、上記ビットストリーム復号化装置を構成する各手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムをコンピュータから読み出し可能に格納したことを特徴としている。

また、本発明の記憶媒体の他の特徴とするところは、上記ビットストリーム復号化方法の手順をコンピュータに実行させるためのプログラムをコンピュータから読み出し可能に格納したことを特徴としている。

【0018】

【発明の実施の形態】

近年、新しい符号化方式としてMPEG4が注目されている。上記MPEG4は、従来のMPEG2などと比較した場合に、大きな特徴としては空間的、時間的スケーラビリティに加えて、映像を複数のオブジェクト（たとえば、背景と人物など）に分割して各々を符号化し多重化する点である。

【0019】

また、従来の自然画像と音声に加えて、CGやアニメーションに対応した符号化が可能なこと、誤り耐性が強化されていることなども特徴である。本実施の形態では、特に、複数のオブジェクトを扱う点に着目している。

【0020】

図1は、本実施の形態を示すビットストリーム復号化装置の構成を示すブロック図である。図1において、101は符号化されたビットストリーム入力端子、102はデスクランブル手段、103は多重化されたデータを分離する手段、104は分離されたオーディオ信号を復号する手段である。

【0021】

また、105～107は分離された各VOP（Video Object Plane）信号を復号する復号化手段、108はシーン記述を復号するシーン記述復号化手段、109はオーディオ信号や各VOPを合成する合成手段である。

【0022】

また、110～112は切り替えスイッチ、113はプライオリティデコーダ、114は電話回線などの通信回線端子、115はモデム、116はCPU、117はICカード、118はリモコンをそれぞれ示している。

【0023】

上述のように構成された本実施の形態のビットストリーム復号化装置は、従来例と同様に、入力端子101から多重化されたビットストリームが入力される。そして、視聴許可がある場合にはCPU116からの解除キーの供与によりデスクランブル手段102においてスクランブルが解除される。

【0024】

スクランブルが戻されたストリームは分離手段103において、オーディオ、VOP0、VOP1、VOP2、シーン記述の各ストリームに分離される。ここで、VOPとはMPEG4では基本的なビデオ画像の単位であり、正しくはビデオオブジェクトの瞬間的な値（画像）を示している。

【0025】

MPEG4には多くのレイヤが用意されており、例えばVOPを空間または時間的に拡張して解像度を上げたVOL（Video Object Layer）と呼ばれる上位レイヤとか、さらにVOLを集めたVO（Video Object）などがあり、1つの画像を分割するには無数の切り口が考えられる。

【0026】

ここでは、簡単のため最も基本的なVOPでこれらの切り口を代表している点を了解されたい。VOPの数もこの例では3個に限定して説明する。分離された各ストリームは各々オーディオ復号化手段104、各VOP復号化手段105、106、107、シーン記述復号化手段108で復号化された後、合成手段109で合成されて出力される。

【0027】

なお、シーン記述というのは、オブジェクトに分割されたVOPを空間的な位置合わせと時間的な同期をとって1つの映像とするための言語による記述である（オーディオもまた1つのオブジェクトと考え時間的な同期をとる）。

【0028】

空間的な位置合わせ以外に時間的な同期も必要となるのは、各オブジェクトが多重化による時間シフトや復号の遅れのバラツキの影響を受けるためであり、図 1 中の各復号化手段の前後には実際にはバッファが必要となるが、図 1 では煩雑となるため省略している。

【0029】

図 1 の説明に戻ると、スイッチ 110、111、112 は各 VOP の復号出力を合成手段 109 に送るか否かを示しており、これらのスイッチをオフにした場合は、本来の M P E G 4 で得られるビデオ出力とは異なる出力が得られる。

【0030】

すなわち、あるスイッチをオフにするとそれに相当するオブジェクトが画面に表示されないように作用する。これらのスイッチ 110、111、112 は C P U 116 の出力値をプライオリティデコーダ 113 によりデコードして制御する。

【0031】

プライオリティデコーダ 113 は、例えば図 3 に示すように働くため、映像を符号化する際にあらかじめ重要なビデオオブジェクトから順にプライオリティデコーダ VOP 0、1、2... と割り当ててあれば、整数値 0、1、2、3 をユーザーごとの契約に応じて与えることで、同じ番組に対して画像の精細度を多段階に分けたサービスを提供できる。

【0032】

契約の手順としては、従来例と同様に行い、番組 ID と解除キーに加えて整数値を IC カードに余分に 1 つだけ記憶するだけである。また、ペーパービューの場合も同様に、管理センターへ送信する視聴情報にこの数値を付加するだけでよい。

【0033】

さらに、明示的なサービスの差別化の例として、図 2 のブロック図を参照する。これは、図 1 の合成手段 109 を具体化した一例であり、ここでの VOP は上述した解像度方向への拡張である VOL に該当するものである。VOP 0 は、最低解像度の画像であり、VOP 1、VOP 2 が与えられない場合、ビデオ出力は

小画面の縦横を単純に引き延ばしただけの画像となる。

【0034】

VOP1やVOP2は、画像の高精細情報であり、合成手段109に供給された場合は、ビデオ出力には高品位な画像が得られる。したがって、契約に応じた整数値により共通なビットストリームに対して、ユーザーの契約内容ごとに異なる複数の画質レベルの画像を提供することが可能となる。

【0035】

図3の数値を例にとると、“3”を契約したユーザーが最も高画質なサービスを受けることになる。なお、図3だけを見ると、一見MPEG2の階層符号化を用いても実現できそうであるが、上述したようにビデオオブジェクトという概念が基本であり、画面上のある物体だけの解像度を変えることもできる点に注意する。MPEG2では、画面全体を対象とした階層化だけが可能である。

【0036】

以下、本実施の形態に関連して補足説明をしておく。本実施の形態では、整数値を用いてVOPの優先順位を決定したが、代わりにコマンドニーモニック等を用いてもよいし、現状のレベルを記憶しておいてUP/DOWNコマンドによりレベルを変更するといった方法も考えられる。

【0037】

また、本実施の形態では、上記整数値が復号するVOPの個数に一致しているが、VOPの個数は常に変動するため、許される最大のVOP数に対する割合（例えば、50%復号とか20%復号など）を指標としてもよい。

【0038】

図1において、各VOPに優先順位を付けるために、スイッチ110、111、112を制御しているが、直接VOPの復号化手段105、106、107を制御して、復号化を選択的に行わないようにしてもよい。

【0039】

また、プライオリティデコーダ113の代わりにCPU116によって直接制御してもよい（ソフトウェアによるデコード）。本実施の形態では、オーディオオブジェクトに触れなかったが、例えば各VOPに1対1に対応して複数のオー

ディオが多重化されているようなアプリケーションでは、本実施の形態のVOPに対する処理を同様に適用できるのは明らかである。

【0040】

また、複数のシーン記述を多重化して本実施の形態を適用すれば、VOPに優先順位を付ける本実施の形態よりもさらに柔軟なサービスの階層化を行うことが可能となる。なお、本実施の形態では、放送をイメージして説明を行なったが、DVD等のパッケージメディアにも同様に適用できる。

【0041】

他の実施の形態としては、オブジェクト単位にオン/オフ、及びその他の制御を行うことができることから、クイズ番組のようなインタラクティブ（双方向）なアプリケーションも可能である。

【0042】

（本発明の他の実施形態）

本発明は複数の機器（例えば、ホストコンピュータ、インタフェース機器、リーダー、プリンタ等）から構成されるシステムに適用しても1つの機器からなる装置に適用しても良い。

【0043】

また、上述した実施形態の機能を実現するように各種のデバイスを動作させるように、上記各種デバイスと接続された装置あるいはシステム内のコンピュータに対し、上記実施形態の機能を実現するためのソフトウェアのプログラムコードを供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（CPUあるいはMPU）に格納されたプログラムに従って上記各種デバイスを動作させることによって実施したものも、本発明の範疇に含まれる。

【0044】

また、この場合、上記ソフトウェアのプログラムコード自体が上述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコード自体、およびそのプログラムコードをコンピュータに供給するための手段、例えばかかるプログラムコードを格納した記憶媒体は本発明を構成する。かかるプログラムコードを記憶する記憶媒体としては、例えばフロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、

光磁気ディスク、CD-ROM、磁気テープ、不揮発性のメモ리카ード、ROM等を用いることができる。

【0045】

また、コンピュータが供給されたプログラムコードを実行することにより、上述の実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードがコンピュータにおいて稼働しているOS（オペレーティングシステム）あるいは他のアプリケーションソフト等の共同して上述の実施形態の機能が実現される場合にもかかるプログラムコードは本発明の実施形態に含まれることは言うまでもない。

【0046】

さらに、供給されたプログラムコードがコンピュータの機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに格納された後、そのプログラムコードの指示に基づいてその機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPU等が実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって上述した実施形態の機能が実現される場合にも本発明に含まれることは言うまでもない。

【0047】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、複数のオブジェクト毎に符号化及び多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離するとともに復号化する際の精度を複数段階に制御可能にしたので、入力されたビットストリームに対して柔軟で多様なサービスを実現することができる。例えば、放送メディアにおいて、従来は視聴制限の単位はチャンネル単位か、或いは番組単位がせいぜいであり、制限のレベルもオン／オフの制御しかできなかったのに対し、同じ番組でも契約に応じた高品位の映像を提供するようにすることを可能にする。

【0048】

また、本発明のその他の特徴によれば、優先順位づけのための付加回路や付加ソフトウェアを軽微で済ますことができる。さらに、符号化側でVOPに優先順位を付けた場合に、受信側の能力が低く例えばVOPを2個までしか復号できないような装置でも大きな破綻を避けるようにすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態を示し、ビットストリーム復号化装置の一例を示すブロック図である。

【図 2】

図 1 の合成ブロックを詳細に示したブロック図である。

【図 3】

プライオリティデコーダの動作を説明する図である。

【図 4】

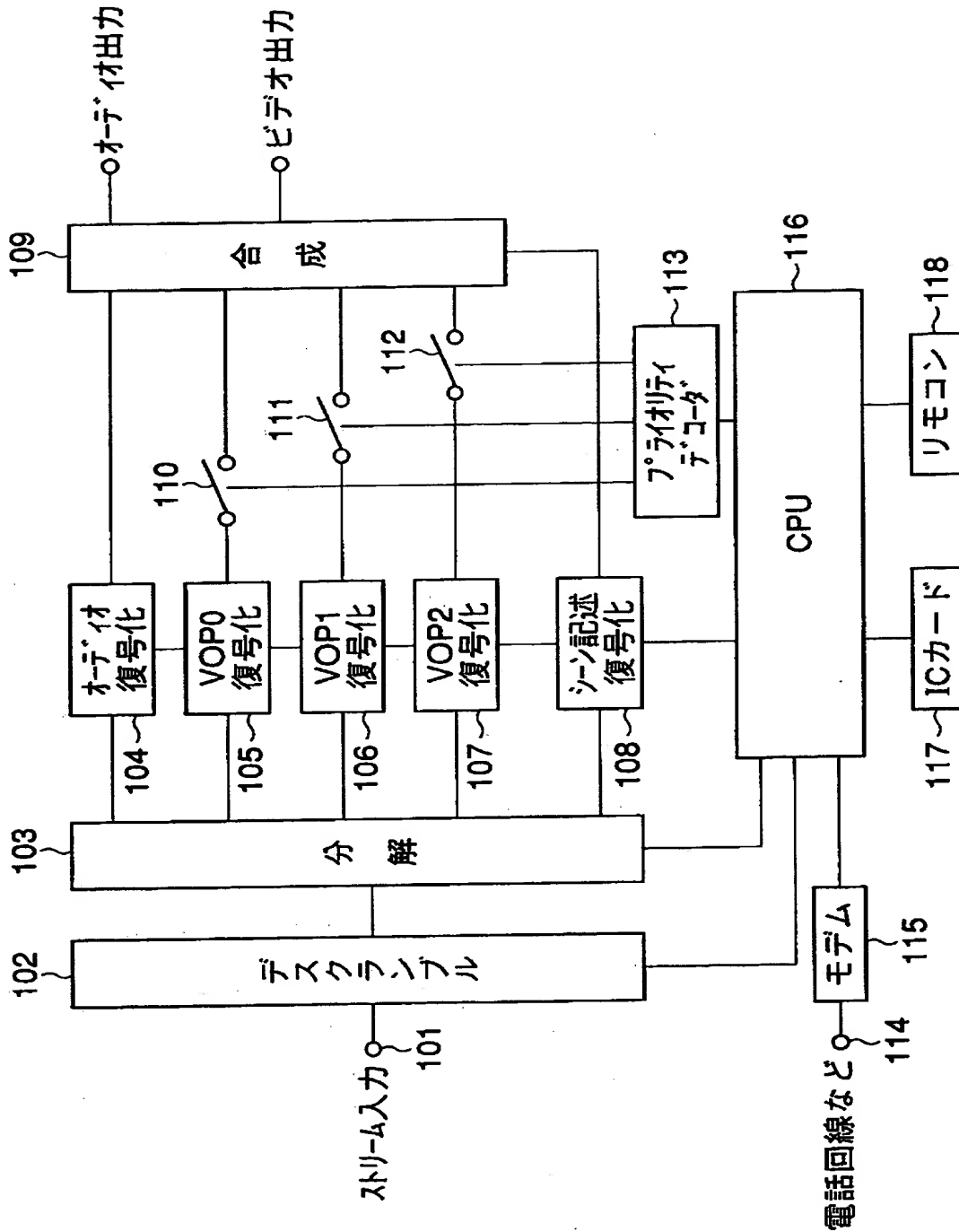
従来のビットストリーム復号化装置の一例を示すブロック図である。

【符号の説明】

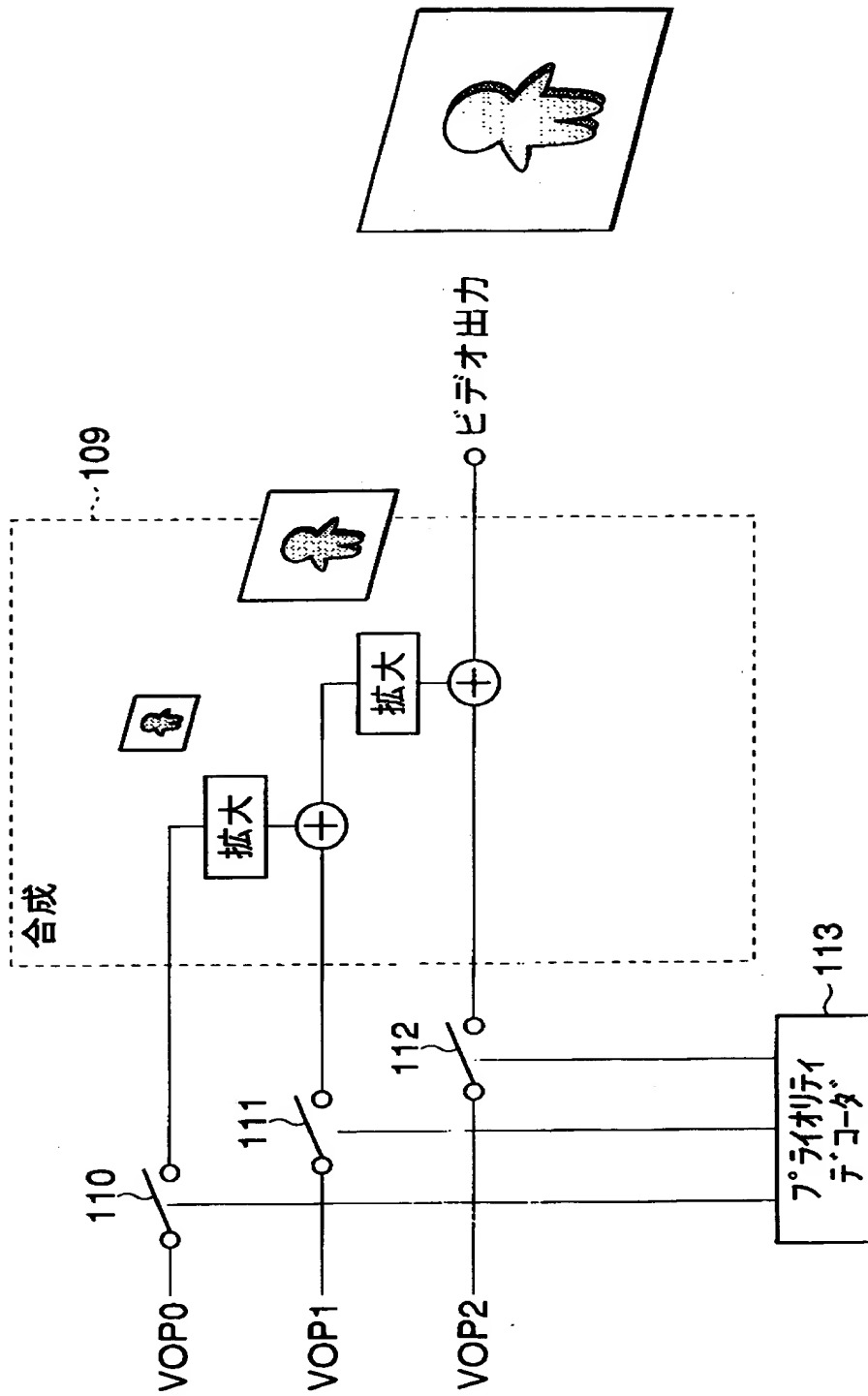
- 1 0 1 ストリーム入力端子
- 1 0 2 デスクランブル手段
- 1 0 3 分離手段
- 1 0 4 オーディオ復号化手段
- 1 0 5、1 0 6、1 0 7 ビデオ（または VOP）復号化手段
- 1 0 8 シーン記述復号化手段
- 1 0 9 合成手段
- 1 1 0、1 1 1、1 1 2 スイッチ
- 1 1 3 プライオリティデコーダ
- 1 1 4 電話回線などの通信回線
- 1 1 5 モデム
- 1 1 6 CPU
- 1 1 7 ICカード
- 1 1 8 リモコン

【書類名】 図面

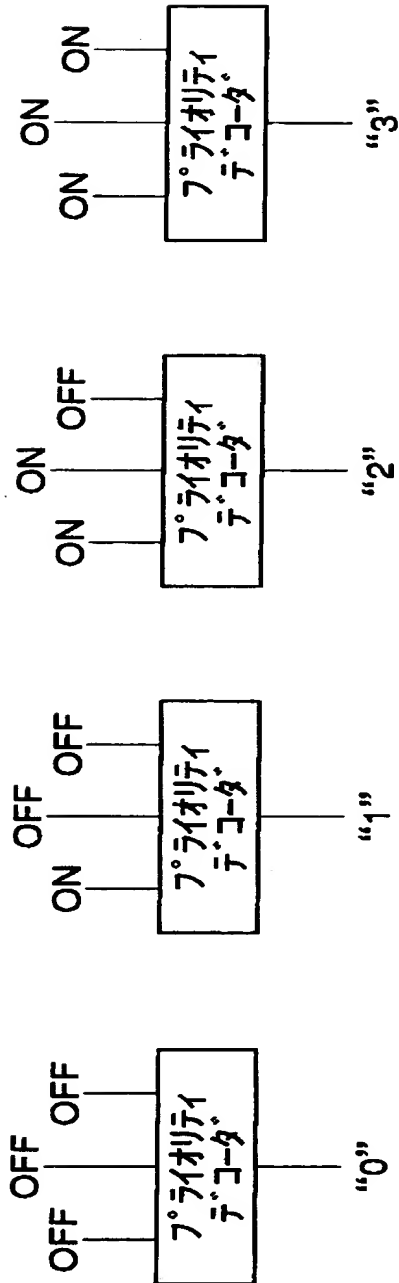
【図 1】



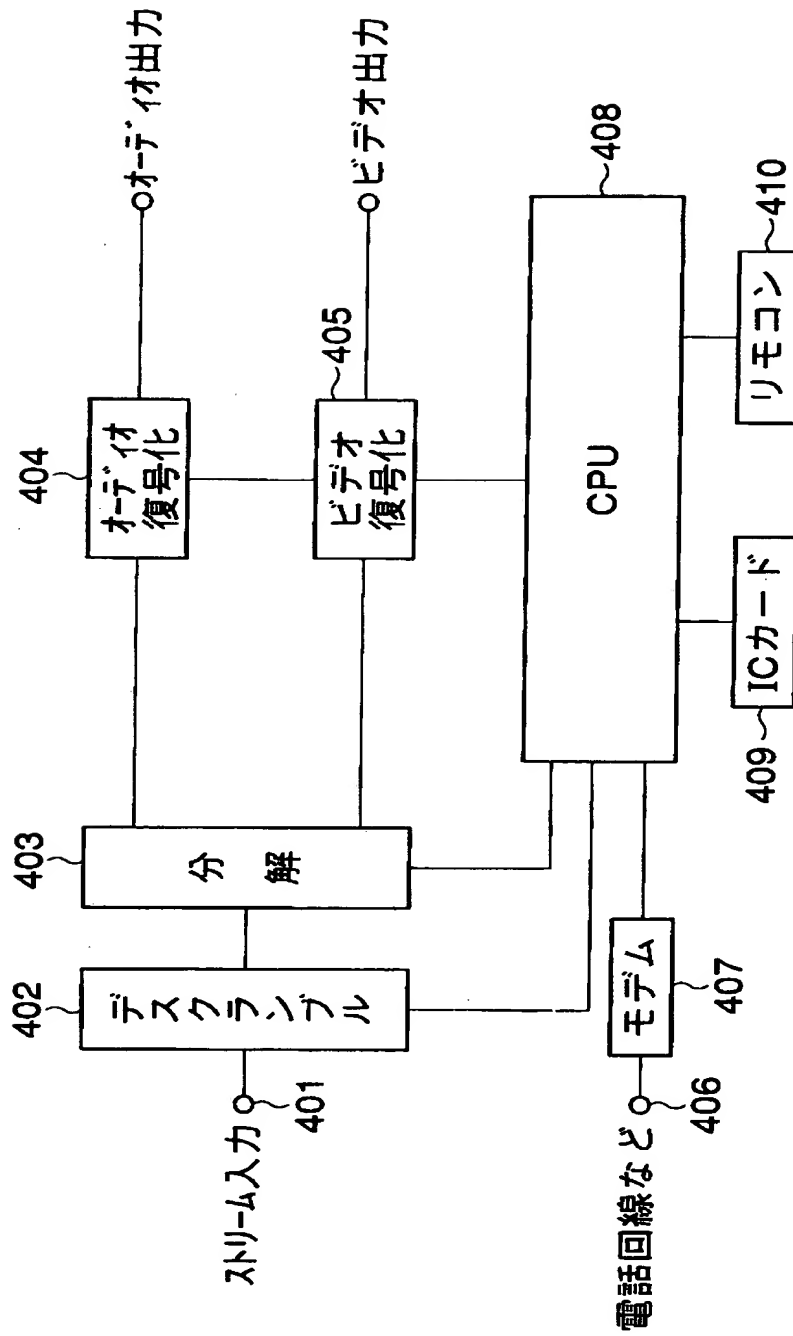
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ビットストリームを復号する際の精度を多段階に設定できるようにして、柔軟で多様なサービスを可能にする。

【解決手段】 複数のオブジェクト毎に符号化及び多重化されたビットストリームを各オブジェクトストリームに分離するとともに、上記各オブジェクトストリームを復号化した後で合成する際の精度を複数段階に制御可能することにより、入力されたビットストリームをニーズに合わせた複数段階の精度で復号して出力できるようにする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名 キヤノン株式会社